

相模原市立相武台中学校 2 学年職業講座



2月4日(金)、相武台中学校で行われた職業講座に、さがみはら教育応援団より講師を5名派遣しました。建設業、調理師学校校長、スーパーマーケット人事課長、海外駐在員、TV局記者、という現職または元職の5人の講師が2学年の5クラスで話をしました。

生徒達はこのような実際の職業の経験者や現職の方の体験談・職業観の話を聞いたことははじめてです。新しい体験で、新鮮な思いで講師の話を聞いたことと思いま

す。一方、職業観についてどれほどの想いがあつたか不明で、受け止め方はまちまちであったようです。将来社会に出てどんな職業につくのか、事前に自分の問題として意識させておくことが大切と思いました。

現在は、職業ということについて学校時代に十分な認識を持たないまま、ただ社会に出て働くことを先送りしている時代のようにも感じます。中学生時代から将来どういう職業を選択するのか自分の頭で考えたうえで、進学進路も選ぶべきでしょう。そういう意味で市民講師による職業講座はきわめて重要な役割を持っていると考えます。

今回の職業講座で、建設業という職業を紹介された柳瀬さんは元一流ゼネコン社員で、阪神淡路大震災を身をもって経験されて、災害に強い街づくりを目指して現在川崎市役所の区画整理事務所で働いている方です。TV記者という職業を紹介された元北海道テレビ浅井さんは、ドキュメンタリーの一場面が作られるだけでもその背景に大勢のTV局記者やスタッフやの働きがあることを話されました。元TDKの赤倉さんは、メーカーから海外派遣員としていろいろな国に赴任した体験から、これからは海外で働くことが非常に多くなり、クラスの何人かは必ず海外に派遣されるであろうこと、英語は世界共通のビジネス用語となるので絶対に身につけておかなければいけないとアドバイスされました。調理師の仕事を紹介された高久さんはシェフの服装で、調理の一端を実演紹介されながらこの仕事の難しさや楽しさを話されました。スーパーの仕事について話された柴田さんは流通革命というちょっと難しい話をわかりやすく説明され、ここで働く人々の役割などを話されました。

今回の講座はPTAの方も参観され、これも大変賢明な配慮だったと思います。今後PTAから職業講座の企画がされることも期待されます。

